

2010年の知床半島斜里町側における 海上ラインセンサスによる海鳥の記録

福田 佳弘*・甲村 真理

099-4365 斜里町ウトロ東 365, 知床海鳥研究会

Record of Seabirds in Shari Town, Shiretoko Peninsula by Line Transect Censuses on the Sea, 2010

FUKUDA Yoshihiro* & KHOMURA Mari

Shiretoko Seabirds Research Club, 429 Utoro-higashi, Shari, Hokkaido 099-4365, Japan. *murrelet@d1.dion.ne.jp

はじめに

知床国立公園斜里町側の海岸では、ウミウ、オオセグロカモメやウミネコ、稀少鳥類であるケイマフリをはじめ数多くの海鳥が繁殖している。またミズナギドリなど多くの渡り鳥の中継地としても知られている。

こうした海鳥は、生息範囲が広域にわたること、そして食性の幅が広く生態系において様々な生物を餌とすることから、海洋の環境や生態系をモニタリングする指標として非常に有用である。

そこで今回2010年6-10月に本海域を利用する海鳥の海上センサスを行なったので報告する。

方法

ウトロ港から出航している観光船おーろら号の船首から海上センサスを行なった。おーろら号は492t、平均13.3kt(約24.6km/h)で航行する大型観光船である。調査は2010年6月2日から10月25日の間に2-6日の間隔をあけて行い、6-9月の知床岬航路(ウトロ港-知床岬の往復、10:00-13:50)で17回、10月の硫黄山航路(ウトロ港-硫黄山の往復、10:30-12:00)で6回実施した。GPSで計測した観光船の各航路を図1に示す。また航路を約5km間隔に8区域に分け、各調査区域名をA-Hとした(図1)。

センサスは、おーろら号の船首近い右舷で10倍の双眼鏡を用いて行った。往路は進行方向から側方岸側にかけて、復路は進行方向から側方沖側にかけてを調査し、調査者から300m以内の上空および海上に出現したすべての海鳥の種名、個体数を記録した。調査時に種の同定が困難な場合には補足的にデジタルカメラで撮影した画像を用いて同定した。

結果と考察

1. 個体数と種数

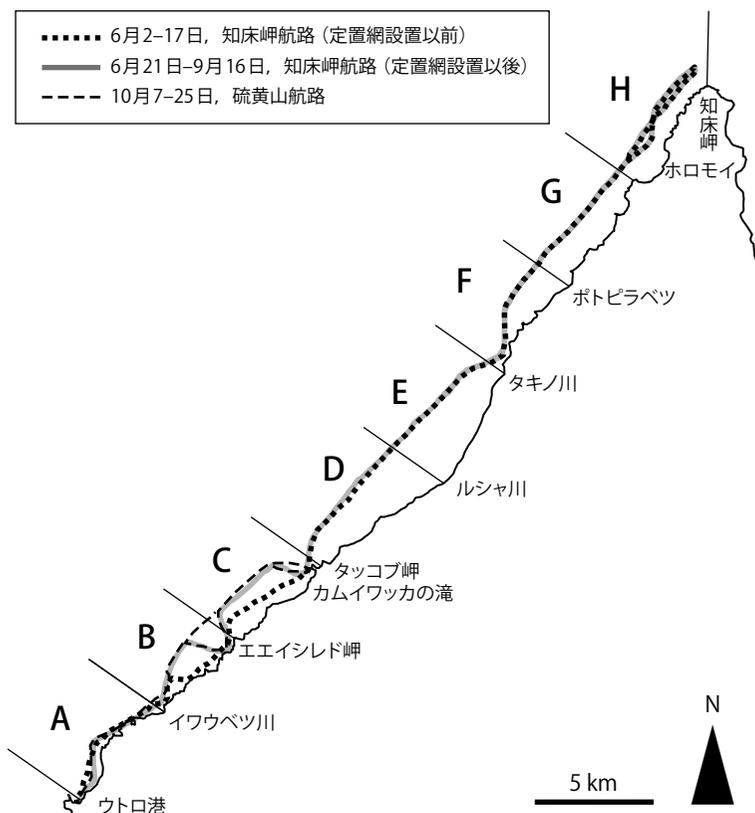
各センサスで観察された海鳥の個体数および種数の推移を図2に示した。

6月にはハシボソミズナギドリ、フルマカモメ、10月にはミツユビカモメといった南半球、あるいは北方からの渡り鳥が群れて飛来し、一時的に当海域に滞留していたため個体数の増加が観察された(図3)。特にハシボソミズナギドリは2万を超える大群であった。

全体としては個体数、種数ともに6月から8月にかけて少なくなった。これは渡り鳥の減少によるものであった。一方知床で繁殖するウミウやオオセグロカモメ、絶滅危惧種であるケイマフリの割合が高かった。

9月には個体数はやや増加するが、これはウミ

図1. 海上ラインセンサスの航路と調査区域.



ネコ、オオセグロカモメの繁殖期が終わり幼鳥の巣立ち分散がはじまるのと、北方からの渡り鳥の出現によるものであった。10月になると知床で繁殖する海鳥はかなり減少するが、北方からの渡り鳥の増加に伴い全体の個体数は増加傾向を示した。

これら個体数と種数の季節的变化を引き起こす要因は明らかでないが、海鳥の食性と知床の海洋環境の季節的变化などによるものと考えられる。

2. 活動区域

南半球からの渡り鳥のハシボソミズナギドリ、北海道以北で繁殖するミツユビカモメは知床岬に近い区域でそのほとんどが観察された。知床岬付近の海域は、宗谷暖流の終りにあたり、かつ知床岬から続く浅瀬(知床堆)の存在と、沿岸で急激に水深が深くなるという地形的特色を有し、魚類が豊富である。岬付近の海域のこうした特性が海鳥

の滞留を可能にしていると考えられる。

近隣で繁殖するウトウは知床岬付近のH区域のほかDおよびG区域で、北方からやってくるフルマカモメについてはG区域で多く観察された(図4)。このDおよびG区域は、調査時にイルカなど海洋性哺乳類が多く観察された区域でもある。このように、共にグローバルに海洋を移動する海鳥と海洋性哺乳類が知床海域の中でも特定の海域に出現するということは、この海域が豊富な生態系を有することを示す好事例であろう。

3. 主な種の出現状況

a) アビ科

アビ、シロエリオオハム、ハシジロアビ、オオハム sp. が観察された。オオハム sp. はオオハムとシロエリオオハムの識別が困難だったものである。6月にはオオハム sp. 1-6羽が、10月にはシロエリオオハムとオオハム sp. をあわせて8-60羽が観察さ

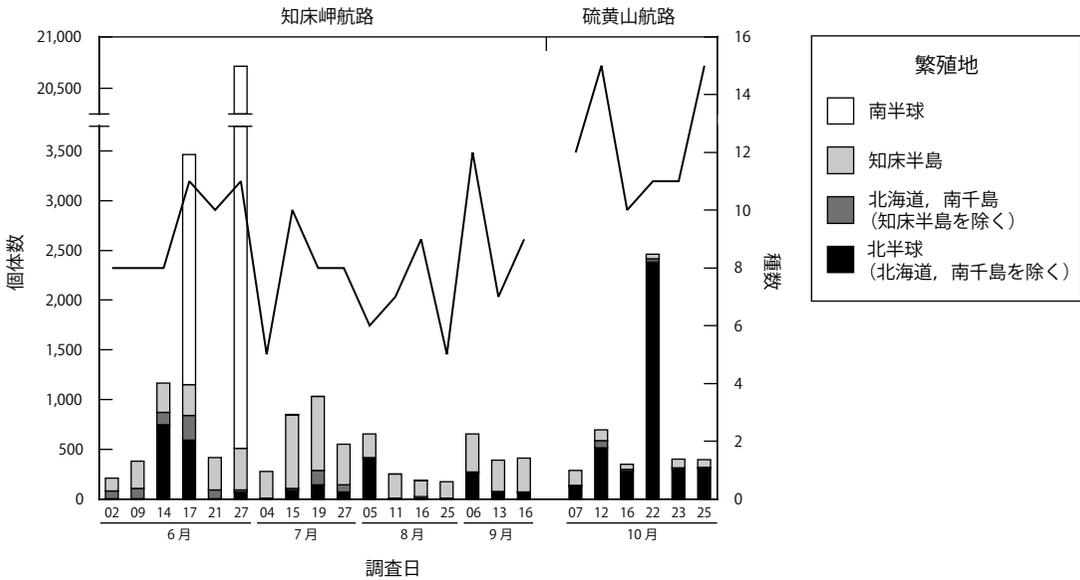


図2. 2010年の海上ラインセンサスで観察された海鳥の繁殖地別個体数（棒グラフ）および種数の推移（折れ線グラフ）。6-9月は知床岬航路（ウトロ港-知床岬）、10月は硫黄山航路（ウトロ港-硫黄山沖）。

れた（図3-a）。これらの時期の個体は群れをつくり全てが知床岬方向へ向かって飛行していた。

b) フルマカモメ

今回の調査では、6月から7月にかけて観察された。6月14日と17日には数百羽の大群と遭遇したが（図3-b）、いずれも曇りや濃霧で天候が良くない日であった。ほとんどが海上に浮かんでおり、採餌行為を行なっている個体も多数観察された。渡り途中に知床の豊富な餌資源を求め知床周辺に出現したと考えられる。ほとんどが暗色型であり、すべて非繁殖個体と考えられる。これまで1997年および1998年に、今回と同様6月に300羽ほどの大群が観察されている（福田2002）。

G区域で多く観察され、DおよびG区域では同時に海洋性哺乳類も多く観察された（図4-b）。

c) アカアシミズナギドリ

8月16日に4羽がルシャ沖で観察された。表面性魚類（浮魚類）であるマイワシやサンマなどを好むことから（小城1990）、出現にはこれらの魚類との関連性もあると考えられる。

d) ハシボソミズナギドリ

6月17日に2,313羽、6月27日に20,202羽、いずれもおおよそ500-1,000羽単位の大群が知床岬沖で観察された（図3-c）。沖の遠方に見られたのでハイイロミズナギドリが混入していたかどうかは確認できなかった。他の区域より沖側であるD-E区域で多く観察されたが（図4-c）、これは強い外洋性の習性が反映されていると考えられる。

e) ハイイロウミツバメ

6月17日に2羽、7月15日に2羽が観察されたのみであった。なお、1998年には本海域で18羽が観察されている（福田2002）。

f) ウミウ

本海域ではプユニ岬-エエイシレド岬にかけての崖に大きな集団繁殖地があることが報告されており（福田2001）、2003-2010年に500-800巣が確認されている（福田未発表）。今回の海上分布調査でもこの区域（A-B:ウトロ港-エエイシレド岬）で多くの個体が観察された（図4-d）。また7月に個体数が著しく増加した（図3-d）。1997年および

図3. 2010年6-10月の海上ラインセンサスにおける海鳥個体数の推移. 個体数は各センサスの観察個体数を月ごとに平均したもの. 6-9月は知床岬航路(ウトロ港-知床岬), 10月は硫黄山航路(ウトロ港-硫黄山沖). **a:** アビ科, **b:** フルマカモメ, **c:** ハシボソミズナギドリ, **d:** ウミウ, **e:** ヒメウ, **f:** オオセグロカモメ, **g:** ウミネコ, **h:** ミツユビカモメ, **i:** ケイマフリ, **j:** ウトウ.

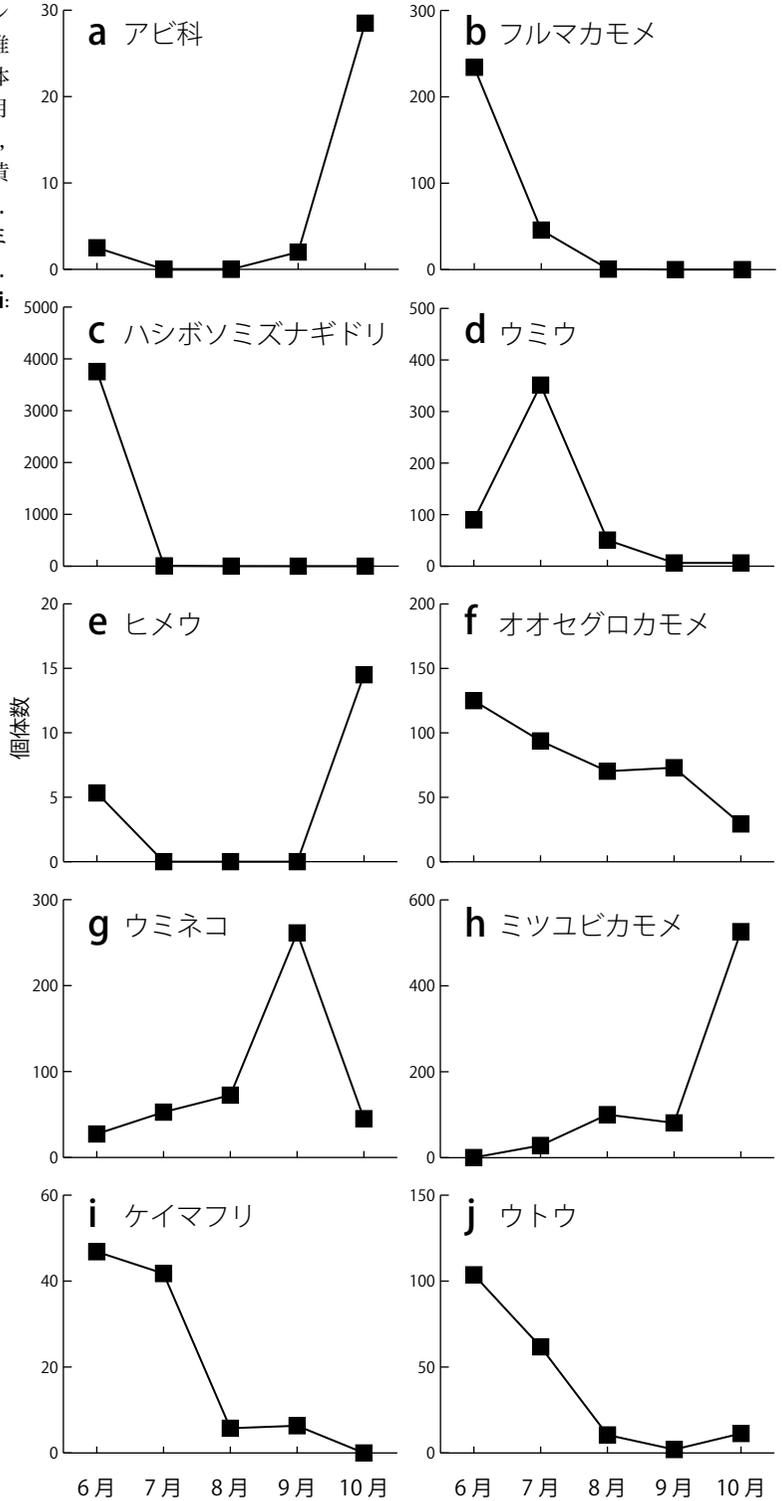
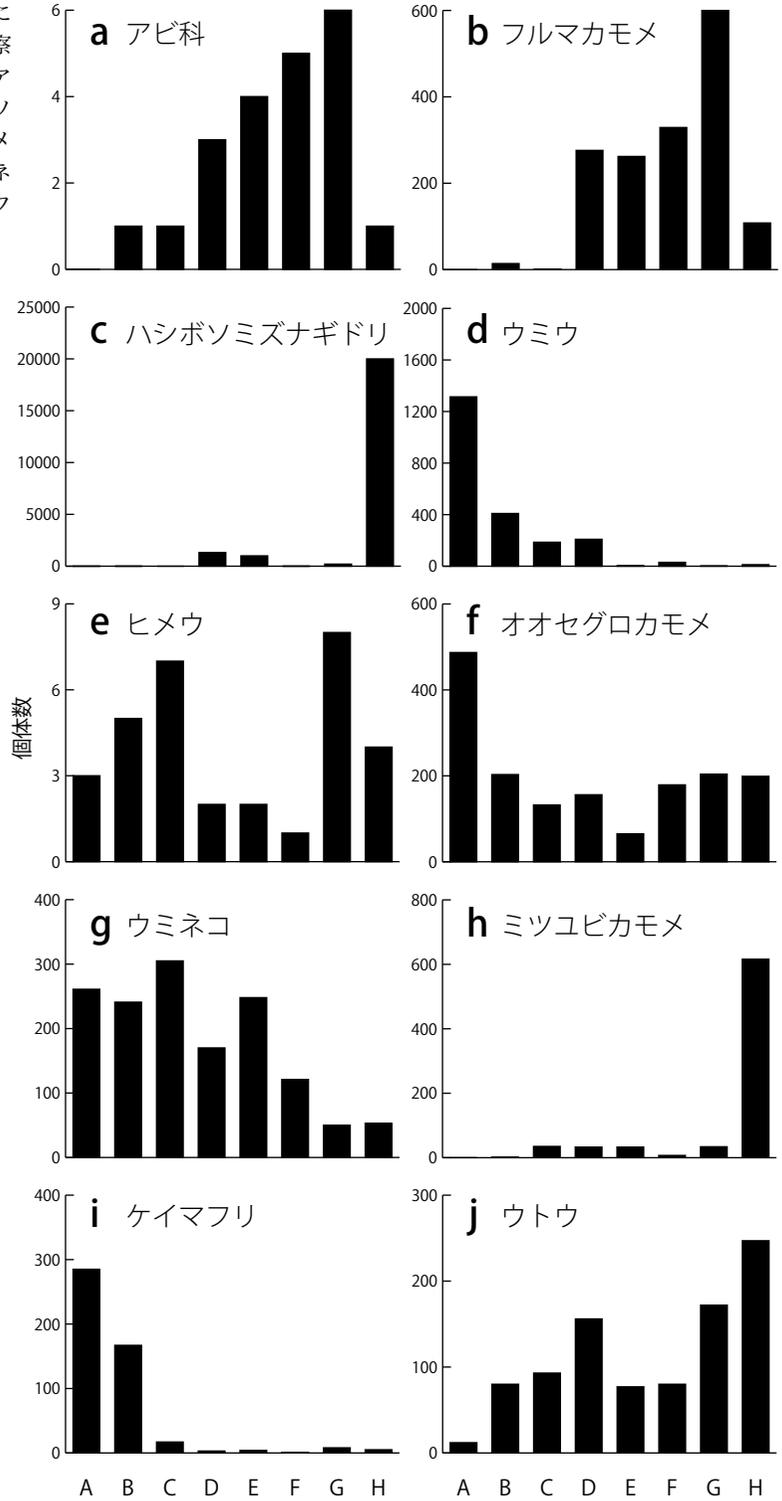


図4. 2010年6-9月の知床岬航路における海上ラインセンサスで観察された海鳥の区域別総個体数. a: アビ科, b: フルマカモメ, c: ハシボソミズナギドリ, d: ウミウ, e: ヒメウ, f: オオセグロカモメ, g: ウミネコ, h: ミツユビカモメ, i: ケイマフリ, j: ウトウ.



1998年においても同様な傾向が認められているが(福田2002),これは繁殖が終了し巣立った幼鳥が加わったためと考えられる。またこの区域では飛行している個体のほか,海上で採餌している個体が観察された。

g) ヒメウ

6月と10月に観察された(図3-e)。知床の近隣では北海道内および南千島で繁殖し(福田未発表),道内では天売島が代表的な繁殖地として挙げられる。知床半島では過去に繁殖の記録はない(中川1988)。観察した個体の中で,生殖羽のものは観察されなかった。

h) チシマウガラス

9月終わりから10月にかけて1-4羽観察されたが,非繁殖個体であった。国内での報告は,以前に道東のモユリ島での繁殖例の報告があるが(藤巻1976),近年は明らかでない。

i) ガンカモ科

ビロードキンクロ,クロガモ,シノリガモ,ウミアイサ,カモ sp.が観察された。ビロードキンクロとクロガモは9月から10月にかけて,10-20羽単位の群れで飛行しているのが観察された。いずれもウトロ港から知床岬方向に向かっていた。ウミアイサは10月中旬から観察されたが他のカモに比較し個体数は少なかった。シノリガモは知床半島で繁殖しているという報告がある(宇仁2004)。

j) アカエリヒレアシギ

旅鳥として飛来した個体が6月17日に1羽,8月16日に14羽と少数が観察された。

k) トウゾクカモメ, トウゾクカモメ sp.

シロハラトウゾクカモメかクロトウゾクカモメか判別が困難だった個体はトウゾクカモメ sp.とした。今回の調査では知床岬付近でミツユビカモメの群れに追従している個体が見られた。

l) オオセグロカモメ

当海域ではブユニ岬-エエイシレド岬にかけての崖に大きな集団繁殖地があることが報告されており(福田2001),今回の海上分布調査でもこの区域(A-B:ウトロ港-エエイシレド岬)で多くの個体が観察された(図4-f)。

また,釣り船や漁船に多数が群がっている様子が観察された。また各センサスで確認された個体数は大きくばらついた。これらは,この鳥が比較的人間活動に依存しているためと思われる。しかし月単位でみると,ウミウやケイマフリと同様に,7月から減少傾向を示した(図3-f)。

m) ウミネコ

活動区域はウミウやオオセグロカモメのような偏りがなかった(図4-g)。本海域におけるウミネコの大きな集団繁殖地としては五湖の断崖(B区域)が報告されているが(福田2005),飛翔能力が高いため採餌も広域にわたり,観察領域が広がったと考えられる。

他の知床で繁殖する海鳥とは異なり,繁殖地からの分散がはじまる8月から9月にかけて急激に個体数が増加した(図3-g)。これは一時的なもので10月には6-7月と同程度の数になった。

n) ミツユビカモメ

7月に少数が,8月5日には401羽が確認されたがその後姿を消し,9月からまた知床岬付近に群れで出現しだし,最大羽数は10月22日の2,350羽であった(図3-h)。多くの個体は採餌行為をしており,南下途中に餌を求めて知床岬付近に飛来したものである。知床岬付近(H区域)以外では観察数はかなり少なかった(図4-h)。

o) その他カモメ科

ユリカモメ,セグロカモメ,ワシカモメ,カモメ,アジサシが,いずれも9月から10月に当海域で観察された。越冬地から南に渡る途中で知床海域に滞留した個体であると考えられる。

p) ウミガラス・ハシブトウミガラス

ウミガラスは6月21日に1羽、6月27日に2羽の合計3個体、ハシブトウミガラスは10月25日に1羽が観察された。いずれも繁殖に参加しない個体や渡り途中で飛来したと考えられる。

q) ケイマフリ

8月5日に巣立ち雛が観察された。育雛期後半の7月19日から個体数が減少し巣立ち期の8月5日には20羽、雛の巣立ちが終了したと予想される8月11日には2羽、8月16日には1羽となり、8月25日には観察されなかった。その後、9月6日に7羽、9月13日に11羽が観察された。

繁殖期にあたる6-7月に最も多く観察されており(図3-i)、海域では営巣地のあるA-B区域で最も多く観察された(図4-i)。

r) マダラウミスズメ

6月27日に1羽と8月11日に2羽が観察された。これまでの調査でルシャ湾や羅白町の峯浜沖でつがいによるディスプレイが観察されており(福田・小林2009)、周辺での繁殖も示唆されているが、繁殖地の特定には至っていない。今回出現した個体についても繁殖状況は不明である。

s) ウトウ

6月に最大個体数が観察された(図3-j)。岬付近のH区域で最も多く、次いでDおよびG区域で多く観察された(図4-j)。

近隣では、国後島の北端の小島と択捉島の萌消湾のライオン岩で繁殖している(福田未発表)。今回の調査では認められなかったが、数年前に巢内の雛に給餌する魚をくちばしに持って飛行する個体も確認されていることから(福田・小林2009)、繁殖に参加している個体もこの海域を利用していると考えられる。

t) エトピリカ

6月21日に2羽が観察された。近隣では国後島の北端の小島と択捉島の萌消湾のライオン岩南端とベルタル崎で繁殖が確認されている(福田未発

表)。

おわりに

調査に協力していただいた観光船おーろら号は、毎回一定速度、同一航路で航行する。これにより調査条件をほぼ均一化できるほか、海岸から一定の距離を保ち、かつ航行速度が遅くないため海鳥への影響も最小限に止められる。さらに、多くの観光客が乗船する観光船であることから、将来的には知床の海鳥の保護活動についてアピールする場になりうる。

また今後はこの調査を規格化し、海鳥の専門家だけでなく一般の自然愛好家にも調査に参加する機会を設けることで、この海域の特殊性やケイマフリなど稀少鳥類の保護活動への一般の理解を深めていきたい。

この海域ラインセンサス調査を今後も経年的に実施することで、世界自然遺産である知床に暮らす海鳥の保護のみならず、知床の、そして地球規模の海洋環境のモニタリングのために役立つデータが得られることを願っている。

本調査は、環境省委託「平成22年度ウトロ海域における海鳥調査業務」の一環で行った。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、北海道大学名誉教授の小城春雄氏に多くの助言をいただいた。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- 宇仁義和. 2004. 知床半島先端部でのシノリガモ *Histrionicus histrionicus* の繁殖. 知床博物館研究報告 25: 13-14.
- 小城春雄. 1990. 北太平洋における海鳥観察指針. 45 pp. 水産庁研究部, 東京.
- 中川元. 1988. 3鳥類. 大泰司紀之・中川元(編著), 知床の動物. pp. 59-121. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 福田佳弘. 2001. 知床半島斜里側における海鳥の繁殖分布1997・1998年. 知床博物研究報告 22: 69-74.

